

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年8月28日
【事業年度】	第61期(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)
【会社名】	株式会社オータケ
【英訳名】	OTAKE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉川 富雄
【本店の所在の場所】	名古屋市中村区名駅三丁目9番11号
【電話番号】	052(562)3311(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 三浦 博隆
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中村区名駅三丁目9番11号
【電話番号】	052(562)3311(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 三浦 博隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第57期 平成21年 5 月	第58期 平成22年 5 月	第59期 平成23年 5 月	第60期 平成24年 5 月	第61期 平成25年 5 月
売上高 (千円)	24,236,875	19,782,855	21,776,246	22,580,756	22,273,404
経常利益 (千円)	643,289	326,549	480,560	522,173	506,704
当期純利益 (千円)	272,414	164,977	220,551	297,529	314,911
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	1,312,207	1,312,207	1,312,207	1,312,207	1,312,207
発行済株式総数 (株)	4,284,500	4,284,500	4,284,500	4,284,500	4,284,500
純資産額 (千円)	9,259,304	9,216,408	9,334,327	9,469,298	9,920,671
総資産額 (千円)	13,896,623	13,662,988	14,531,248	14,438,268	14,780,851
1株当たり純資産額 (円)	2,186.86	2,221.85	2,250.28	2,282.86	2,391.68
1株当たり配当額 (円)	27.00	23.00	23.00	25.00	23.00
(うち1株当たり中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益金額 (円)	63.68	39.55	53.17	71.73	75.92
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	66.6	67.5	64.2	65.6	67.1
自己資本利益率 (%)	2.9	1.8	2.4	3.2	3.2
株価収益率 (倍)	28.9	42.4	32.0	23.7	25.0
配当性向 (%)	42.4	58.2	43.3	34.9	30.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	896,891	851,095	308,419	4,146	571,284
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	70,634	215,986	230,883	142,258	28,439
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	235,840	257,509	95,405	95,541	103,699
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,157,063	1,534,662	899,954	950,817	1,389,963
従業員数 (名)	239	227	222	231	227
(外、平均臨時雇用者数)	(28)	(27)	(27)	(29)	(26)

(注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため記載を省略しております。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

5 第60期の1株当たり配当額25円には、記念配当2円を含んでおります。

6 臨時雇用者(嘱託、パートタイマー、人材会社からの派遣社員、アルバイト)は、平均人員を()内に外数で記載しております。

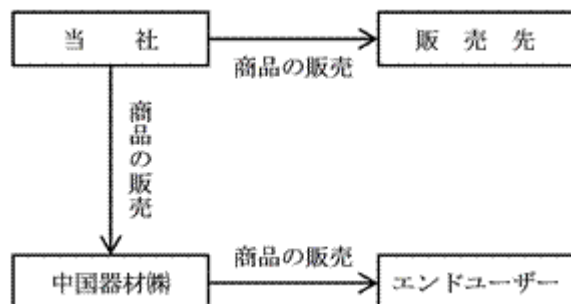
2 【沿革】

年月	概要
昭和27年5月	名古屋市西区に(株)大嶽商店(資本金180万円)を設立
昭和28年4月	本社を名古屋市中村区(現在地)へ移転
昭和44年5月	本社ビル(現社屋)完成
昭和49年9月	静岡県富士市に富士営業所(現・静岡支店)を開設
昭和51年11月	大阪市の(株)木谷バルブを子会社化(現・関西支店及び九州支店)
昭和55年7月	富山県射水郡小杉町(現射水市)に北陸営業所(現・北陸支店)を開設
昭和59年7月	新潟市に新潟営業所(現・新潟支店)を開設
昭和61年8月	札幌市に札幌営業所(現・札幌支店)を開設
昭和63年3月	神奈川県平塚市に厚木営業所(現・神奈川営業所)を開設
昭和63年8月	商号を株式会社オータケに変更
平成元年5月	事務合理化のためOA機器を全面採用、販売システムのオンライン化
平成3年3月	(株)木谷バルブを100%子会社化
平成3年6月	(株)大嶽商店(昭和63年8月設立)を吸収合併
平成3年9月	埼玉県大宮市(現さいたま市)に北関東営業所を開設
平成5年5月	東京都の(株)石井商店を子会社化(現・東京支店)
平成5年6月	名古屋市に名古屋営業所(現・名古屋支店)開設
平成6年9月	(株)石井商店を100%子会社化(平成7年1月1日に社名を(株)イシイに変更)
平成7年3月	日本証券業協会の店頭売買銘柄に登録
平成14年4月	名古屋市に名古屋物流センターを開設
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取り消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成17年6月	連結子会社(株)木谷バルブ及び(株)イシイを吸収合併し、関西支店、九州支店及び東京支店を開設
平成17年10月	中国器材(株)を100%子会社化
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場に株式を上場
平成22年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
平成25年7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場

3 【事業の内容】

当グループは、当社と子会社1社で構成され、管工機材の販売を主な事業としております。
なお、当社の事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 中国器材㈱は重要性が乏しいと判断し、非連結子会社としております。

4 【関係会社の状況】

記載すべき関係会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成25年5月31日現在			
従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
227 (26)	37.9	13.4	4,756

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(嘱託、パートタイマー、人材派遣からの派遣社員、アルバイトを含む)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

なお、当社の事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

当社の労働組合は、昭和50年8月に従業員組合が組織され、平成25年5月末現在の組合員数は197名であり上部団体には属していません。

なお、当社の労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、東日本における復興関連需要や好調な自動車販売等、緩やかな回復傾向が見られました。また、当事業年度後半には、行き過ぎた円高の修正や株価の上昇等による景気回復への期待が高まっております。

当管材業界におきましては、新規住宅投資が増加傾向にあるものの、民間設備投資は依然として低調であり、不安定な原材料価格や市場の縮小による同業他社間の競争の激化等、先行き不透明な状況が続いております。このような環境のもとで、当社は、新規取引先の開拓や既存取引先でのシェアアップ等営業基盤の拡充に努めてまいりました。

この結果、当事業年度における売上高は222億73百万円（前期比1.4%減）となりました。また、利益面につきましても、売上高の減少により、営業利益は4億13百万円（前期比1.4%減）、経常利益は5億6百万円（前期比3.0%減）となりました。また、当期純利益は法人税等が減少したことにより3億14百万円（前期比5.8%増）となりました。

なお、当社の事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、投資活動により28百万円を使用（前期は1億42百万円の獲得）、財務活動により1億3百万円を使用（前期は95百万円の使用）しましたが、営業活動により5億71百万円獲得（前期は4百万円の獲得）したことにより、4億39百万円増加し、13億89百万円となりました。

なお、当事業年度におけるフリー・キャッシュフローは、5億42百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は5億71百万円となりました。これは主に、たな卸資産が96百万円増加し、法人税等の支払が2億59百万円あったものの、売上債権が3億97百万円減少し、税引前当期純利益を4億83百万円計上したこと等によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は28百万円となりました。これは主に、投資有価証券の売却が4百万円あったものの、有形固定資産の取得が23百万円、投資有価証券の取得が13百万円あったこと等によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億3百万円となりました。これは配当金を1億3百万円支払ったことによります。

（注）フリー・キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合算したものであります。

2 【仕入及び販売の状況】

当社の事業は単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しておりますが、品目別の業績を示すと次のとおりであります。

(1) 仕入実績

当事業年度における仕入実績を品目別に示すと次のとおりであります。

区分	仕入高(千円)	前年比(%)
バルブ・コック類	7,151,523	102.5
継手類	3,700,134	99.2
冷暖房機器類	2,829,393	107.6
衛生・給排水類	1,981,131	110.1
パイプ類	1,807,115	100.8
その他	2,112,002	79.7
計	19,581,301	100.0

- (注) 1 金額は、仕入価格によっております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 販売実績

当事業年度における販売実績を品目別に示すと次のとおりであります。

区分	売上高(千円)	前年比(%)
バルブ・コック類	7,978,667	99.3
継手類	4,451,047	98.0
冷暖房機器類	3,163,439	106.9
衛生・給排水類	2,219,609	110.1
パイプ類	1,964,278	100.9
その他	2,496,361	80.9
計	22,273,404	98.6

- (注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

(1) 当社の現状の認識について

今後のわが国経済につきましては、円高の修正による企業収益の改善や各種経済対策による公共投資の増加が見込まれ、海外においては堅調な米国経済や、東南アジアにおける経済成長等により景気回復が期待されております。

当管材業界におきましては、住宅投資は伸びが見込まれるものの、民間設備投資の今後の動向は不透明であり、引き続き経営環境は厳しい状況で推移するものと予想されます。

(2) 当面の対処すべき課題の内容

このような厳しい経営環境ではありますが、当社といたしましては、利益重視の効率経営を経営方針としていくことより、当面の経営目標として掲げた売上高経常利益率3%以上及び株主資本利益率4%以上を達成するため、以下の重点施策を実施いたします。

営業基盤の強化

新規顧客の開拓、既存顧客でのシェアの拡大による営業基盤の強化が、当社における喫緊の課題であります。このため、顧客第一主義を徹底し、地域戦略や商品戦略の見直しによる顧客ニーズにあった高付加価値商品やサービスの提供、及び物流システムの見直しにより一層のきめ細かいデリバリーサービスを展開し、営業基盤の拡大を図ってまいります。

収益力の強化

上記営業基盤の強化による売上増加の推進に加え、粗利益率の向上や、徹底したローコスト経営により収益力の強化を図ってまいります。このため、採算意識の徹底や商品戦略の再構築による高付加価値商品、成長商品の販売増強を行い、粗利益率の向上を図るとともに、トータルコストの一層の削減やリスク管理の徹底により、収益力の向上を図ってまいります。

人材の強化

上記営業基盤の強化、収益力の強化を担える人材の育成を行ってまいります。このため、教育体系の確立や充実を行い、提案のできる人材の育成や積極的な人材登用と適材適所による人材の有効活用を図り、活気に満ちた人材集団にしてまいります。

(3) 対処方針及び具体的な取組状況

具体的な取組方法といたしましては、まず第一にお客様との接点を多くもち、お客様をよりよく知り、お客様により多くの提案を行っていくことです。そのため、お客様への訪問頻度を高めるため、社内体制の見直しを行い、より多くの訪問ができる体制を作ります。また、担当者から社長まで、お客様の情報を共有し、全社一丸となって、お客様のお役に立てるようにいたします。併せて、人材の育成の面から、商品の勉強会を積極的に行い、商品の特性を把握し、お客様のニーズに合った商品の提案ができるようにしてまいります。

次に、従来から標榜してまいりましたローコスト経営につきましても、固定費の削減に努力するとともに、リスク管理の徹底により不良債権の発生を抑え、経費削減に努めてまいります。

昨今の厳しい経済環境のもと、従来より掲げてまいりました 営業基盤の強化、収益力の強化、人材の強化の重点施策を、上記具体策により一層早く実施・定着させ、お客様から更なる信頼を得、良きビジネスパートナーになるようにしてまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、以下の事項には将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当事業年度末において判断したものであります。

(1) 設備投資動向等の影響について

当社が属する管工機材業界は、公共投資、民間設備投資の動向に業績が左右される傾向にあります。公共投資の分野ではここ数年縮小傾向が続いており、また、行き過ぎた円高が修正されたものの、民間設備投資も先行きが不透明であり、今後管材業界内での受注競争は一層激化するものと思われま

す。こうした環境下、更なる公共投資や民間設備投資の減少は、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 取引先の信用リスクについて

当社は、売上の大部分を信用販売によって行っています。このため得意先財務情報を入手し、取引のリスクを軽減すべく与信管理を行っていますが、取引先の収益及び財政状態の急激な悪化によっては、保有する売上債権の一部について回収不能となるリスクがあり、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) 仕入価格の変動について

当社の取扱商品の仕入価格は、素材市況の動向により変動する可能性があります。当社は仕入価格の変動に対しては在庫水準の調整や販売価格への転嫁を柔軟かつ迅速に対応するように努力していますが、急激な価格変化に対しては十分な対応ができない場合があり、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 減損損失について

営業用資産について、営業所の収益力の低下により将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価格を下回ることとなった場合は、減損処理を行うため、当社の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に際し、決算日における資産・負債の数値、報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積り及び仮定設定を行っております。この見積り及び仮定設定に関しては、過去の実績や状況に応じた合理的かつ妥当な判断を行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、当初の見積りと異なる場合があります。

なお、当社の採用する重要な会計方針は、第5（経理の状況）の「重要な会計方針」に記載しております。

(2) 財政状態の分析

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当事業年度末の資産につきましては、流動資産合計が102億38百万円となり、前事業年度末と比較して1億47百万円の増加となりました。これは主に売上債権が3億98百万円減少しましたが、現金及び預金が4億39百万円、たな卸資産が96百万円増加したこと等によります。

固定資産合計は、前事業年度末と比較して1億95百万円増加し、45億42百万円となりました。これは主に繰延税金資産が1億24百万円、建物が29百万円、土地が25百万円減少しましたが、投資有価証券が3億69百万円増加したこと等によります。

以上の結果、当事業年度末の資産合計は、前期末と比較して3億42百万円増加し、147億80百万円となりました。

(負債)

負債につきましては、流動負債合計が41億10百万円となり、前事業年度末と比較して11百万円減少しました。これは主に仕入債務が1億45百万円増加しましたが、未払法人税等が1億4百万円、未払消費税等が27百万円、賞与引当金が20百万円減少したこと等によるものです。

固定負債合計は、前事業年度末と比較して97百万円減少し、7億49百万円となりました。これは主に役員退職慰労金に係る長期未払金（その他の固定負債）が98百万円減少したこと等によります。

以上の結果、当事業年度末の負債合計は前事業年度末と比較して1億8百万円減少し、48億60百万円となりました。

(純資産)

純資産につきましては、当事業年度末の純資産合計は99億20百万円となり、前事業年度末と比較して4億51百万円増加しました。これは主に配当金の支払が1億3百万円ありましたが、当期純利益を3億14百万円計上し、その他有価証券評価差額金が2億40百万円増加したこと等によります。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載したとおりであります。

なお、当社のキャッシュ・フロー指標等の推移は、下記のとおりであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	第57期 平成21年5月期	第58期 平成22年5月期	第59期 平成23年5月期	第60期 平成24年5月期	第61期 平成25年5月期
自己資本比率 (%)	66.6	67.5	64.2	65.6	67.1
時価ベースの自己資本比率 (%)	56.2	50.9	48.5	48.8	53.3
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率 (%)					
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	81.3	140.3		0.8	110.1

自己資本比率 : 自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : キャッシュ・フロー / 利払い

(注) 1 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(注) 2 キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

(注) 3 有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

(3) 経営成績の分析

(売上高)

当事業年度の売上高は222億73百万円となり、前事業年度と比較して3億7百万円の減少となりました。これは主に下期において民間設備投資需要が伸び悩んだことより、当社主力商品のパルプと継手及びパイプ類の販売が低調に推移したことによります。

(営業利益)

当事業年度の営業利益は4億13百万円となり、前事業年度と比較して6百万円の減少となりました。これは主に売上の減少による粗利益額の減少によるものであります。

(経常利益)

当事業年度の経常利益は5億6百万円となり、前事業年度と比較して15百万円の減少となりました。これは主に営業利益の減少によるものであります。

(当期純利益)

当事業年度の当期純利益は3億14百万円となり、前事業年度と比較して17百万円の増加となりました。これは主に法人税等の減少によるものであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資の総額は、本社7階厨房改修及び設備更新等により23,268千円であります。
なお、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。
当社の事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

2 【主要な設備の状況】

平成25年5月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)	
		建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品		合計
本社 (名古屋市中村区)	営業設備	88,568	199	206,854 (526)	4,047	299,670	71 (3)
札幌支店 (札幌市東区)	営業設備	10,020	1,392	136,750 (1,983)	704	148,868	14 (1)
新潟支店 (新潟市東区)	営業設備	1,436	99	[1,465]	124	1,659	11 (1)
東京支店 (東京都江東区)	営業設備	6,120	3,939	156,395 (489)	0	166,454	14
静岡支店 (静岡県富士市)	営業設備	23,322	680	103,772 (1,884) [694]	37	127,812	16 (2)
北陸支店 (富山県射水市)	営業設備	26,927	1,709	219,334 (5,595)	275	248,246	14
名古屋支店 (名古屋市中村区)	営業設備	26,505	114	68,130 (182)	116	94,867	17
関西支店 (堺市美原区)	営業設備	105,623	2,169	128,039 (2,650)	151	235,984	17 (1)
九州支店 (福岡市博多区)	営業設備	6,238	247	77,620 (1,186)	966	85,072	15 (1)
北関東営業所 (さいたま市見沼区)	営業設備	0	54	151,103 (2,180)	22	151,180	9 (1)
神奈川営業所 (神奈川県平塚市)	営業設備	15,514	3,525	136,774 (1,457)	735	156,549	9
名古屋物流センター (名古屋市中川区)	営業設備	335,973		935,529 (7,945)	6,815	1,278,318	20 (10)

(注) 1 土地及び建物の一部は賃借しております。賃借している土地の面積につきましては、〔 〕で外書しております。

2 従業員数の()は、臨時雇用者数を外書しております。

3 上記のほか、リース契約等による主な賃借設備は次のとおりであります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

設備の内容	台数	リース期間	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
業務用コンピューター (所有権移転外ファイナンス・リース)	1式	5年	7,417	
車両運搬具 (所有権移転外ファイナンス・リース)	1台	7年	301	

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等
該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等
該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,000,000
計	13,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,284,500	4,284,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,284,500	4,284,500		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成7年7月20日	389	4,284		1,312,207		1,315,697

(注) 平成7年7月20日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主の所有株式を、1株につき1.1株の割合をもって分割しました。

(6) 【所有者別状況】

平成25年5月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	1	6	2	108			223	340	
所有株式数 (単元)	3,630	5,646	4	13,768			19,792	42,840	500
所有株式数 の割合(%)	8.47	13.18	0.01	32.14			46.20	100.00	

(注) 自己株式136,508株は「個人その他」に1,365単元及び「単元未満株式の状況」に8株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
オータケ持株会	名古屋市中村区名駅三丁目9番11号	452	10.54
西尾市	愛知県西尾市寄住町下田22	363	8.47
オータケ従業員持株会	名古屋市中村区名駅三丁目9番11号	304	7.10
株式会社キッツ	千葉県美浜区中瀬一丁目10番1号	292	6.81
鈴木 照	愛知県尾張旭市	277	6.47
尾崎美津子	愛知県日進市	148	3.46
岡谷鋼機株式会社	名古屋市中区栄二丁目4番18号	142	3.32
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	140	3.26
株式会社りそな銀行	大阪府中央区備後町二丁目2番1号	132	3.08
株式会社名古屋銀行	名古屋市中区錦三丁目19番17号	107	2.51
計		2,359	55.06

(注) 上記のほか、自己株式が136千株あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 136,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,147,500	41,475	
単元未満株式	普通株式 500		
発行済株式総数	4,284,500		
総株主の議決権		41,475	

【自己株式等】

平成25年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社オータケ	名古屋市中村区名駅三丁目9番11号	136,500		136,500	3.18
計		136,500		136,500	3.18

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	136,508		136,508	

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成25年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成25年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題として位置づけており、先行き厳しい経営環境のもと、経営の効率化を図りながら、安定的な配当を維持継続していくことを目標とし、併せて企業体質の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実を考慮しつつ、利益水準をより反映した適正な配当水準の維持向上に努めることを基本方針としております。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

期末配当の決定機関は、株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記配当政策に基づき、1株当たり23円とさせていただきます。

なお、当社は、「取締役会の決議によって、毎年11月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年8月28日 定時株主総会決議	95	23.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期
決算年月	平成21年5月	平成22年5月	平成23年5月	平成24年5月	平成25年5月
最高(円)	2,000	1,861	1,750	1,790	1,920
最低(円)	1,657	1,550	1,522	1,650	1,620

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQ市場におけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月	平成25年3月	平成25年4月	平成25年5月
最高(円)	1,860	1,920	1,920	1,920	1,900	1,900
最低(円)	1,800	1,865	1,900	1,880	1,900	1,860

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)		吉川 富雄	昭和24年12月15日生	昭和47年6月 平成5年6月 平成9年8月 平成13年8月 平成17年8月 平成19年8月	当社入社 仕入部長 取締役仕入部長 取締役商品部長 常務取締役商品部長 代表取締役社長(現任)	(注)2	35
常務取締役	営業本部長	村井 善幸	昭和31年9月26日生	昭和54年3月 平成13年8月 平成17年8月 平成18年6月 平成19年8月 平成23年8月	当社入社 営業部長 取締役営業部長 取締役営業副本部長 取締役営業本部長 常務取締役営業本部長(現任)	(注)2	16
取締役	東日本 営業部長	高原 修一	昭和29年2月16日生	昭和55年7月 平成13年6月 平成16年6月 平成17年6月 平成19年6月 平成20年8月 平成25年6月	当社入社 北陸営業所長 営業本部付部長(北関東営業所・ 神奈川営業所統括) 東京支店長 関東統括部長 取締役関東統括部長 取締役東日本営業部長(現任)	(注)2	7
取締役	中部営業部長 兼本社営業 部長	服部 透	昭和36年5月30日生	昭和59年4月 平成16年6月 平成18年6月 平成19年6月 平成23年8月 平成25年6月	当社入社 名古屋支店長 第二営業部次長 第二営業部長 取締役中部地区担当 取締役中部営業部長兼本社営業部 長(現任)	(注)2	7
取締役	経理部長	三浦 博隆	昭和36年9月25日生	昭和59年4月 平成7年6月 平成17年6月 平成19年6月 平成24年8月	当社入社 経理部課長 経理部次長 経理部長 取締役経理部長(現任)	(注)2	11
取締役	総務部長兼 システム室 担当	加藤 邦彦	昭和31年7月31日生	昭和57年3月 平成14年6月 平成18年6月 平成24年6月 平成25年8月	当社入社 総務部次長 内部監査室長 総務部長 取締役総務部長兼システム室担当 (現任)	(注)2	9
取締役	西日本営業 部長兼関西 支店長	今崎 清明	昭和32年10月9日生	昭和63年4月 平成16年6月 平成18年6月 平成25年6月 平成25年8月	当社入社 名古屋物流センター長 第一営業部長 関西支店長 取締役西日本営業部長兼関西支店 長(現任)	(注)2	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		堀部 浩市	昭和26年6月8日生	平成15年3月 平成16年8月 平成18年8月 平成21年6月 平成21年8月 平成25年8月	(株)りそな銀行人事部人材開発室 室長 当社常勤監査役 取締役経理部長 取締役管理本部経理・システム 担当 取締役管理本部長 常勤監査役(現任)	(注)4	4
監査役		石原 真二	昭和29年11月3日生	昭和60年4月 平成3年7月	名古屋弁護士会登録 当社監査役(現任)	(注)3	0
監査役		秋山 三郎	昭和18年10月25日生	平成13年6月 平成18年6月 平成18年8月	日立バルブ(株)代表取締役 同社代表取締役退任 当社監査役(現任)	(注)3	0
監査役		大嶽 喜久雄	昭和22年3月30日生	平成16年7月 平成17年7月 平成17年10月 平成20年8月	磐田税務署長 国税局退官 当社顧問 当社監査役(現任)	(注)3	0
計							96

- (注) 1 監査役石原真二及び秋山三郎は、社外監査役であります。
 2 平成25年8月28日開催の定時株主総会の終結時から1年間
 3 平成24年8月29日開催の定時株主総会の終結時から4年間
 4 辞任した監査役の補欠として就任したため、前任者の任期である平成24年8月29日開催の定時株主総会の終結時から4年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、全てのステークホルダーの期待に応えるためには、企業価値を最大化かつ継続的に発展させることと
考え、そのためコーポレート・ガバナンスの強化を最重要課題として認識し、下記の5項目を基本方針としてい
ます。

- 1．経営の透明性・健全性の維持確保
- 2．適正かつ迅速な意思決定と説明責任・権限の明確化
- 3．コンプライアンス体制及びリスク管理体制の充実
- 4．迅速かつタイムリーな情報開示
- 5．牽制組織の確立

以上を継続的に実施していくことにより、コーポレート・ガバナンスの強化を図ってまいります。

企業統治の体制

イ．企業統治体制の概要

当社は監査役制度を採用しております。提出日現在の役員構成は、取締役が7名（社外取締役は選任して
おりません）、監査役が常勤監査役1名、非常勤監査役3名であり、非常勤監査役のうち2名が社外監査役で
あります。

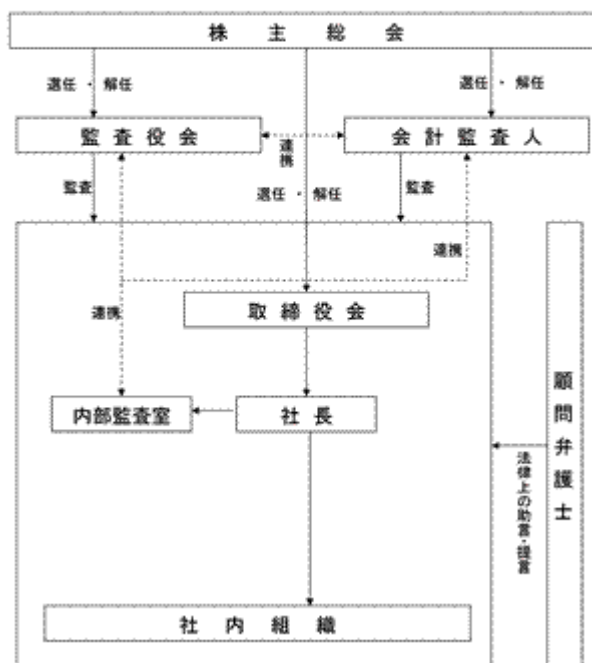
取締役会は、経営方針の策定や業務執行における重要な意思決定機関として取締役及び監査役の出席に
より毎月1回実施しております。また、取締役、常勤監査役及び各部門長で構成される「予算実績会議」を
毎月開催し、業績や業務遂行状況の早期把握、経営方針の徹底等を行っております。

また、内部統制システムの社外からのチェック機能を充実させるため、弁護士事務所、税理士事務所との
顧問契約による法務、税務面での専門的なアドバイス及び経営指導を受けています。

当社は、有限責任監査法人トーマツにより金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要は次のとおりであります。

コーポレート・ガバナンス体制



ロ．企業統治の体制を採用する理由

現在の体制を選択している理由は、社外取締役を選任していませんが、当社の企業規模等から鑑み、社外監
査役2名を含む監査役会による経営監視体制が、経営の透明性及び健全性の強化を図るために有効に機能
していると判断したためであります。

八．リスク管理体制の整備の状況

リスク管理につきましては、全社的なリスク管理は管理部門が統括的に管理し、各部門固有の業務に付随するリスクについては、各部門長がそれぞれ自部門に内在するリスクを把握、分析、評価したうえで適切な対策を実施するとともに、使用人への教育を実施しています。また、不測の事態が発生した場合は、社長指揮下の対策本部を設置し、迅速かつ適正な対応を行い、損害を最小限に抑える体制を整えます。

現状のリスク管理は以下のとおりです。

a．コンプライアンス

「法令遵守規程」を定め、かつ、より具体的内容を織り込んだ「コンプライアンスガイドライン」により、コンプライアンス違反が発生しないように周知徹底を図っております。また、コンプライアンス意識の定着を図るため、毎年研修を実施しております。

また、内部通報制度の認知度を一層高めることにより、コンプライアンス違反の事前防止、早期発見ができる体制を構築しております。

b．債権管理

売上債権につきましては、毎月各取引先の回収状況のチェックを内部監査室にて行っております。また、長期に亘る工事の売掛債権等につきましては、各担当者から毎月工事の進捗状況のヒアリングを行っております。これらにより、架空売上や未回収の発生を未然に防いでおります。

c．与信管理

各取引先については、当社「与信管理規程」に基づいて与信管理を行っており、内部監査室、経理部等において規程どおり運用されているかチェックを行っております。

新規取引先については、外部調査機関の調査報告書をもとに取引の可否と取引ランクを決定し、与信限度を決めております。また、既存取引先については全取引先の外部調査を基に毎年取引ランクの見直しを行い、与信限度を決定するとともに、毎月与信限度の運用状況をチェックしております。信用不安先につきましては、売掛債権保証等を活用して、資金ロスが発生しないようにしております。

内部監査及び監査役監査の状況

営業部門、管理部門とは独立した社長直轄の内部監査室(人員1名)を設置し、各部門への牽制と業務の適正な運営、改善を図るため、計画的な監査を実施しております。また、内部監査室は内部統制システムの運用状況のモニタリングを行い、適時改善を行っております。

監査役会については、監査機能の強化を図るため、監査役4名のうち2名は社外監査役を選任し、監査業務の独立性を確保するとともに、客観的な立場から取締役の職務執行を監督しております。常勤監査役は上記のとおり取締役会等主要な会議に出席、また非常勤監査役は取締役会に出席し、各々の立場から意見を述べています。

また、監査役会は、内部監査室とも連携を密にして情報交換を行っております。

会計監査の状況

会計監査人として有限責任監査法人トーマツを選任しており、当社の会計監査業務を執行した公認会計士は渋谷英司及び神野敦生の両氏であります。なお、当社の会計監査業務に係る補助者は公認会計士10名、日本公認会計士協会準会員2名及びその他5名からなっております。

会計監査人は、監査役会、内部監査室に対して、定期的に監査の方法及び結果について報告を行っております。

社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役石原真二氏は、弁護士としての専門的な知識を活かし、公正中立的な立場から取締役の監視とともに助言・提言をいただくために選任しております。

社外監査役秋山三郎氏は、会社経営において十分な知識と豊富な経験から当社の経営上の課題に対して、有意義な意見やアドバイスを受けるため選任しております。

また、両氏ともに当社との間に人的・資金的・取引関係、その他の利害関係はなく、また一般株主との利益相反の恐れはないため、独立役員に指定しております。

社外監査役は、取締役会に出席して取締役の業務執行を管理監督するほか、外部からの客観的・中立的・且つ専門的な立場から適宜意見を述べており、経営に対する外部からの監視機能は十分に発揮されているため、現状の体制を採用しております。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準及び方針は定めておりませんが、選任にあたっては証券取引所の独立役員の独立性に関する基準等を参考にしております。

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と、業務執行機能を持つ取締役会に対し、監査役4名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	81,910	81,910				7
監査役 (社外役員を除く)	12,180	12,180				2
社外役員	3,600	3,600				2

ロ．報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等
該当はありません。

ハ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(人)	内容
27,915	4	使用人としての給与であります。

ニ．役員の報酬等の額又はその算定方法に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
37銘柄 1,161,091千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)キッツ	999,698	307,907	取引関係強化のため
岡谷鋼機(株)	138,000	119,370	取引関係強化のため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	110,000	21,780	取引関係強化のため
ダイダン(株)	44,373	19,657	取引関係強化のため
(株)大気社	12,974	19,656	取引関係強化のため
(株)ヨシタケ	28,360	17,271	取引関係強化のため
日立金属(株)	17,000	15,521	取引関係強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	45,420	15,442	取引関係強化のため
ジェイ エフ イー ホールディングス(株)	6,711	8,536	取引関係強化のため
(株)名古屋銀行	37,000	8,066	取引関係強化のため
東亜合成(株)	27,500	8,002	取引関係強化のため
高砂熱学工業(株)	10,715	6,665	取引関係強化のため
(株)朝日工業社	21,552	6,293	取引関係強化のため
新日本空調(株)	14,250	6,127	取引関係強化のため
(株)八十二銀行	15,000	5,625	取引関係強化のため
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	17,500	4,445	取引関係強化のため
(株)テクノ菱和	9,725	3,433	取引関係強化のため
三機工業(株)	7,833	2,937	取引関係強化のため
(株)長府製作所	1,000	1,698	取引関係強化のため
C K D(株)	2,055	1,120	取引関係強化のため
川崎設備工業(株)	6,000	786	取引関係強化のため
(株)りそなホールディングス	1,100	324	取引関係強化のため

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)キッツ	1,020,303	513,212	取引関係強化のため
岡谷鋼機(株)	138,000	172,500	取引関係強化のため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	110,000	47,080	取引関係強化のため
(株)大気社	13,532	30,448	取引関係強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	45,420	27,024	取引関係強化のため
ダイダン(株)	45,493	23,793	取引関係強化のため
(株)ヨシタケ	28,360	19,426	取引関係強化のため
日立金属(株)	17,000	18,054	取引関係強化のため
ジェイ エフ イー ホールディングス(株)	7,164	15,367	取引関係強化のため
(株)名古屋銀行	37,000	12,728	取引関係強化のため
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	17,500	12,337	取引関係強化のため
東亜合成(株)	27,500	11,550	取引関係強化のため
高砂熱学工業(株)	11,613	9,638	取引関係強化のため
新日本空調(株)	15,399	8,777	取引関係強化のため
(株)八十二銀行	15,000	7,845	取引関係強化のため
(株)朝日工業社	22,532	7,255	取引関係強化のため
三機工業(株)	8,632	5,205	取引関係強化のため
(株)テクノ菱和	10,624	4,547	取引関係強化のため
C K D(株)	4,289	3,397	取引関係強化のため
(株)長府製作所	1,000	2,076	取引関係強化のため
川崎設備工業(株)	6,000	1,200	取引関係強化のため
(株)りそなホールディングス	1,100	508	取引関係強化のため

八．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計上額の合計額	貸借対照表計上額の合計額	受取配当金の合計額	売却損益の合計額	評価損益の合計額
非上場株式以外の株式	28,817	47,607	528		20,198

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年11月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)
16		16	

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査報酬の決定方針としましては、会社の企業規模、業種及び監査工数等を勘案し、監査役会の同意を得て決定しております。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成24年6月1日から平成25年5月31日まで)の財務諸表について有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握するとともに、関係する法令・会計制度の動向を把握するため、(株)プロネクサスや有限責任監査法人トーマツが主催するセミナーに適時参加しております。

4 連結財務諸表について

連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則(昭和51年大蔵省令第28号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	1.02%
売上高基準	0.78%
利益基準	0.49%
利益剰余金基準	1.11%

1【財務諸表等】
（1）【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	950,817	1,389,963
受取手形	1 3,873,655	1 3,401,557
電子記録債権	1,820	172,210
売掛金	1 3,863,985	1 3,766,806
商品	1,342,281	1,438,289
前払費用	16,674	19,741
繰延税金資産	83,078	67,823
未収入金	8,296	11,132
その他	5,940	5,182
貸倒引当金	55,235	34,324
流動資産合計	10,091,316	10,238,381
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,103,086	2,107,086
減価償却累計額	1,453,071	1,486,147
建物（純額）	650,015	620,938
構築物	163,935	167,036
減価償却累計額	139,126	141,723
構築物（純額）	24,809	25,312
機械及び装置	71,912	71,912
減価償却累計額	69,071	69,781
機械及び装置（純額）	2,841	2,130
車両運搬具	57,384	57,428
減価償却累計額	52,906	45,426
車両運搬具（純額）	4,478	12,001
工具、器具及び備品	146,640	146,287
減価償却累計額	131,613	132,288
工具、器具及び備品（純額）	15,026	13,999
土地	3 2,529,737	3 2,504,226
有形固定資産合計	3,226,907	3,178,608
無形固定資産		
電話加入権	1,627	1,627
水道施設利用権	178	141
無形固定資産合計	1,805	1,768

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	838,852	1,208,698
関係会社株式	23,000	23,000
出資金	310	310
従業員に対する長期貸付金	13,285	10,122
破産更生債権等	9,054	52,480
長期前払費用	231	2,943
繰延税金資産	192,650	67,987
その他	57,360	57,668
貸倒引当金	16,507	61,118
投資その他の資産合計	1,118,238	1,362,092
固定資産合計	4,346,951	4,542,469
資産合計	14,438,268	14,780,851
負債の部		
流動負債		
支払手形	2,118,934	2,318,787
買掛金	1,551,908	1,497,422
未払金	77,852	68,804
未払費用	52,224	50,330
未払法人税等	139,039	34,403
未払消費税等	36,565	9,224
前受金	2,199	672
預り金	6,982	8,067
賞与引当金	136,800	116,535
その他	-	6,610
流動負債合計	4,122,508	4,110,856
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	³ 165,466	³ 156,409
退職給付引当金	531,926	540,662
資産除去債務	17,078	17,273
その他	131,992	34,978
固定負債合計	846,462	749,323
負債合計	4,968,970	4,860,180

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,312,207	1,312,207
資本剰余金		
資本準備金	1,315,697	1,315,697
資本剰余金合計	1,315,697	1,315,697
利益剰余金		
利益準備金	313,051	313,051
その他利益剰余金		
圧縮積立金	29,971	29,971
別途積立金	4,900,000	4,900,000
繰越利益剰余金	2,118,706	2,346,372
利益剰余金合計	7,361,729	7,589,395
自己株式	238,117	238,117
株主資本合計	9,751,516	9,979,182
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	66,311	306,472
土地再評価差額金	3 348,529	3 364,983
評価・換算差額等合計	282,217	58,510
純資産合計	9,469,298	9,920,671
負債純資産合計	14,438,268	14,780,851

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
売上高	1 22,580,756	1 22,273,404
売上原価		
商品期首たな卸高	1,467,447	1,342,281
当期商品仕入高	19,576,401	19,581,301
合計	21,043,849	20,923,582
商品期末たな卸高	2 1,342,281	2 1,438,289
商品売上原価	19,701,567	19,485,293
売上総利益	2,879,189	2,788,110
販売費及び一般管理費		
運送費	375,192	371,823
広告宣伝費	3,355	3,045
貸倒引当金繰入額	43,642	23,280
役員報酬	103,014	97,690
従業員給料及び手当	1,030,024	1,022,804
賞与引当金繰入額	136,800	116,535
退職給付費用	49,804	52,407
法定福利費	174,667	178,565
福利厚生費	10,424	11,130
旅費及び交通費	63,438	63,742
通信費	50,371	50,099
交際費	16,975	13,546
減価償却費	55,992	44,963
賃借料	28,563	26,738
保険料	20,255	20,676
車輛リース料	18,104	20,471
修繕費	33,859	18,387
水道光熱費	22,149	22,533
消耗品費	51,752	48,778
租税公課	67,704	66,099
支払手数料	33,161	34,081
電算機費	37,505	32,417
その他	32,785	34,668
販売費及び一般管理費合計	2,459,544	2,374,488
営業利益	419,644	413,622

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
営業外収益		
受取利息	863	496
受取配当金	22,709	24,150
仕入割引	99,127	98,151
不動産賃貸料	1,860	8,197
その他	20,497	15,623
営業外収益合計	145,057	146,620
営業外費用		
支払利息	5,402	5,190
売上割引	36,639	44,675
貸倒引当金繰入額	-	1,175
その他	485	2,496
営業外費用合計	42,528	53,537
経常利益	522,173	506,704
特別利益		
固定資産売却益	3 80,274	-
投資有価証券売却益	-	2,571
特別利益合計	80,274	2,571
特別損失		
固定資産除売却損	4 21,674	-
減損損失	5 11,064	5 25,845
その他	190	-
特別損失合計	32,929	25,845
税引前当期純利益	569,518	483,431
法人税、住民税及び事業税	255,500	156,000
法人税等調整額	16,489	12,519
法人税等合計	271,989	168,519
当期純利益	297,529	314,911

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,312,207	1,312,207
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,312,207	1,312,207
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,315,697	1,315,697
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,315,697	1,315,697
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	313,051	313,051
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	313,051	313,051
その他利益剰余金		
圧縮積立金		
当期首残高	-	29,971
当期変動額		
圧縮積立金の積立	29,971	-
当期変動額合計	29,971	-
当期末残高	29,971	29,971
別途積立金		
当期首残高	4,900,000	4,900,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	4,900,000	4,900,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,946,553	2,118,706
当期変動額		
剰余金の配当	95,405	103,699
当期純利益	297,529	314,911
土地再評価差額金の取崩	-	16,454
圧縮積立金の積立	29,971	-
当期変動額合計	172,152	227,665
当期末残高	2,118,706	2,346,372
利益剰余金合計		
当期首残高	7,159,605	7,361,729
当期変動額		
剰余金の配当	95,405	103,699
当期純利益	297,529	314,911
土地再評価差額金の取崩	-	16,454
当期変動額合計	202,124	227,665
当期末残高	7,361,729	7,589,395

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
自己株式		
当期首残高	237,981	238,117
当期変動額		
自己株式の取得	135	-
当期変動額合計	135	-
当期末残高	238,117	238,117
株主資本合計		
当期首残高	9,549,527	9,751,516
当期変動額		
剰余金の配当	95,405	103,699
当期純利益	297,529	314,911
土地再評価差額金の取崩	-	16,454
自己株式の取得	135	-
当期変動額合計	201,988	227,665
当期末残高	9,751,516	9,979,182
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	156,167	66,311
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	89,856	240,161
当期変動額合計	89,856	240,161
当期末残高	66,311	306,472
土地再評価差額金		
当期首残高	371,368	348,529
当期変動額		
土地再評価差額金の取崩	-	16,454
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22,839	-
当期変動額合計	22,839	16,454
当期末残高	348,529	364,983
評価・換算差額等合計		
当期首残高	215,200	282,217
当期変動額		
土地再評価差額金の取崩	-	16,454
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	67,017	240,161
当期変動額合計	67,017	223,707
当期末残高	282,217	58,510
純資産合計		
当期首残高	9,334,327	9,469,298
当期変動額		
剰余金の配当	95,405	103,699
当期純利益	297,529	314,911
土地再評価差額金の取崩	-	-
自己株式の取得	135	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	67,017	240,161
当期変動額合計	134,970	451,373
当期末残高	9,469,298	9,920,671

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	569,518	483,431
減価償却費	56,148	45,264
減損損失	11,064	25,845
貸倒引当金の増減額（ は減少）	24,545	23,700
賞与引当金の増減額（ は減少）	16,461	20,265
退職給付引当金の増減額（ は減少）	34,957	8,736
受取利息及び受取配当金	23,572	24,647
支払利息	5,402	5,190
有形固定資産除売却損益（ は益）	67,891	57
売上債権の増減額（ は増加）	274,201	397,359
たな卸資産の増減額（ は増加）	125,165	96,007
仕入債務の増減額（ は減少）	236,548	145,365
未払金の増減額（ は減少）	2,119	8,921
その他	47,186	173,401
小計	286,116	811,708
利息及び配当金の受取額	23,841	24,647
利息の支払額	5,402	5,190
法人税等の支払額	300,408	259,880
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,146	571,284
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	52,701	23,268
有形固定資産の売却による収入	101,696	437
投資有価証券の取得による支出	20,549	13,594
投資有価証券の売却による収入	-	4,823
貸付金の回収による収入	5,813	3,163
長期預金の払戻による収入	100,000	-
その他	8,000	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	142,258	28,439
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	135	-
配当金の支払額	95,405	103,699
財務活動によるキャッシュ・フロー	95,541	103,699
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	50,863	439,145
現金及び現金同等物の期首残高	899,954	950,817
現金及び現金同等物の期末残高	950,817	1,389,963

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については定額法を採用しております。

主な耐用年数

建物	8年～50年
----	--------

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年5月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(簡便法)に基づき計上しております。

5 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年6月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。
これによる損益に与える影響は軽微であります。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、「流動資産」の「受取手形」に含めて表示していた「電子記録債権」は、金額の重要性が増したため当事業年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「受取手形」に表示していた3,875,476千円は、「受取手形」3,873,655千円、「電子記録債権」1,820千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
流動資産		
受取手形	13,852千円	16,570千円
売掛金	4,198	3,260

2 受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
受取手形裏書譲渡高	1,507,282千円	1,240,440千円
(うち関係会社振出手形)	(7,392千円)	(4,335千円)

3 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布 法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日改正)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、当該評価差額に係る税金相当額を再評価に係る繰延税金負債として負債の部に計上し、これを控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。

- ・再評価の方法...土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布 政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算出するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、合理的な調整を行って算出しております。

- ・再評価を行った年月日...平成13年5月31日

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	269,391千円	269,348千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
関係会社への売上高	67,552千円	74,567千円

2 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
	1,094千円	3,779千円

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
土地	80,274千円	千円

4 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)
建物	21,327千円	千円
工具、器具及び備品	12	
その他	334	
計	21,674	

5 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度(自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日)

場所	用途	種類	金額
名古屋市中村区他	遊休資産	電話加入権	11,064千円

当社は、資産を営業用資産、貸貸資産、遊休資産に分類し、営業用資産は営業所ごとに、また貸貸資産及び遊休資産については、それぞれの物件をグルーピングの最小単位として減損損失の兆候を判定しております。

また、遊休状態にある電話加入権については、将来の使用・処分見込が定まっていないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により零で算定しております。

当事業年度(自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日)

場所	用途	種類	金額
さいたま市見沼区	北関東営業所	土地等	25,845千円

北関東営業所の減損損失の内訳

土地 25,510千円

建物 334千円

当社は、資産を営業用資産、貸貸資産、遊休資産に分類し、営業用資産は営業所ごとに、また貸貸資産及び遊休資産については、それぞれの物件をグルーピングの最小単位として減損損失の兆候を判定しております。

また、営業所については、将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回ることとなった資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については路線価に基づき、建物及び構築物については正味売却価額を1物件1円(備忘価額)として算定しています。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	4,284,500			4,284,500
合計	4,284,500			4,284,500
自己株式				
普通株式	136,429	79		136,508
合計	136,429	79		136,508

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加79株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金の支払

決議	株式の 種類	配当金 の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成23年8月25日 定時株主総会	普通株式	95,405千円	23円	平成23年5月31日	平成23年8月26日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の 種類	配当金 の総額	配当の 原資	1株当た り配当額	基準日	効力発生日
平成24年8月29日 定時株主総会	普通株式	103,699千円	利益剰余金	25円	平成24年5月31日	平成24年8月30日

当事業年度（自 平成24年 6 月 1 日 至 平成25年 5 月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	4,284,500			4,284,500
合計	4,284,500			4,284,500
自己株式				
普通株式	136,508			136,508
合計	136,508			136,508

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金の支払

決議	株式の 種類	配当金 の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成24年 8 月29日 定時株主総会	普通株式	103,699千円	25円	平成24年 5 月31日	平成24年 8 月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の 種類	配当金 の総額	配当の 原資	1株当 り配当額	基準日	効力発生日
平成25年 8 月28日 定時株主総会	普通株式	95,403千円	利益剰余金	23円	平成25年 5 月31日	平成25年 8 月29日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成23年 6 月 1 日 至 平成24年 5 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 6 月 1 日 至 平成25年 5 月31日)
現金及び預金勘定	950,817千円	1,389,963千円
現金及び現金同等物	950,817	1,389,963

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年5月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度(平成24年5月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	3,612	3,311	301
工具、器具及び備品	35,996	30,991	5,004
無形固定資産	30,308	27,895	2,412
合計	69,916	62,198	7,718

(単位：千円)

	当事業年度(平成25年5月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	301	301	
工具、器具及び備品	5,004	5,004	
無形固定資産	2,412	2,412	
合計	7,718	7,718	

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	7,718	
1年超		
合計	7,718	

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日)	当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日)
支払リース料	16,532	7,718
減価償却費相当額	16,532	7,718

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用につきましては短期的な預金等に限定し、資金の調達等を必要とする場合は主として銀行等金融機関からの借入により行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及、電子記録債権及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、従業員に対する長期貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の債務不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について営業本部の指示のもと各事業部門及び内部監査室が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前事業年度（平成24年5月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	950,817	950,817	
(2) 受取手形	3,873,655	3,873,655	
(3) 電子記録債権	1,820	1,820	
(4) 売掛金	3,863,985	3,863,985	
(5) 投資有価証券 其他有価証券	629,484	629,484	
資産計	9,319,763	9,319,763	
(1) 支払手形	2,118,934	2,118,934	
(2) 買掛金	1,551,908	1,551,908	
(3) 未払法人税等	139,039	139,039	
負債計	3,809,882	3,809,882	

当事業年度（平成25年5月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,389,963	1,389,963	
(2) 受取手形	3,401,557	3,401,557	
(3) 電子記録債権	172,210	172,210	
(4) 売掛金	3,766,806	3,766,806	
(5) 投資有価証券 其他有価証券	1,001,581	1,001,581	
資産計	9,732,119	9,732,119	
(1) 支払手形	2,318,787	2,318,787	
(2) 買掛金	1,497,422	1,497,422	
(3) 未払法人税等	34,403	34,403	
負債計	3,850,612	3,850,612	

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 電子記録債権及び(4) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形、(2) 買掛金及び(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
非上場株式	209,368	207,117
関係会社株式	23,000	23,000
出資金	310	310

- (1) 非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。
- (2) 関係会社株式及び出資金は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「2 金融商品の時価等に関する事項」には記載しておりません。

3. 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成24年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	914,663			
受取手形	3,873,655			
電子記録債権	1,820			
売掛金	3,863,985			
合計	8,654,125			

当事業年度(平成25年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,353,137			
受取手形	3,401,557			
電子記録債権	172,210			
売掛金	3,766,806			
合計	8,693,712			

(有価証券関係)

1. 子会社株式

関係会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式23,000千円、前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式23,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

前事業年度(平成24年5月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	533,136	411,466	121,669
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	小計	533,136	411,466	121,669
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	96,348	113,466	17,118
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	小計	96,348	113,466	17,118
合計		629,484	524,933	104,551

当事業年度（平成25年5月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	997,034	533,629	463,405
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	997,034	533,629	463,405
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	4,547	4,898	351
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	4,547	4,898	351
合計		1,001,581	538,527	463,054

3. 売却したその他有価証券

当事業年度（自平成24年6月1日至平成25年5月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	4,823	2,571	
(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
(3) その他			
合計	4,823	2,571	

(デリバティブ取引関係)

前事業年度（自平成23年6月1日至平成24年5月31日）及び当事業年度（自平成24年6月1日至平成25年5月31日）

当社はデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の退職一時金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	531,926	540,662
(2) 退職給付引当金(千円)	531,926	540,662

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日)	当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日)
退職給付費用(千円)	49,804	52,407

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算方法

退職給付債務は、退職金規程に基づく期末自己都合要支給額の100%としております。

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)及び当事業年度(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	20,734千円	25,691千円
未払費用	14,783	13,470
未払事業税	10,630	4,352
賞与引当金	51,847	44,166
退職給付引当金	196,714	192,996
長期未払金	42,533	5,196
減損損失	30,452	60,832
投資有価証券評価損	12,910	12,910
会員権評価損	5,992	5,992
その他	14,728	17,726
繰延税金資産 小計	401,325	383,336
評価性引当額	69,430	73,239
繰延税金資産合計	331,894	310,096
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	38,239	156,581
圧縮積立金	16,495	16,495
その他	1,430	1,208
繰延税金負債合計	56,166	174,285
繰延税金資産の純額	275,728	135,810
再評価に係る繰延税金負債		
再評価に係る繰延税金資産	230,453	233,635
評価性引当額	230,453	233,635
再評価に係る繰延税金負債	165,466	156,409
差引	165,466	156,409

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
法定実効税率	40.4%	37.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1	0.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.8	1.1
住民税均等割	2.1	2.5
評価性引当額の増減	0.1	4.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.6	
その他	0.3	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.8	34.9

(持分法損益等)

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)及び当事業年度(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)

当社は関連会社がないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)及び当事業年度(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)

当社は、管工機材卸売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品の外部顧客への売上高が損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所有している有形固定資産はないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

損益計算書の売上高の10%以上を占める外部顧客がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品の外部顧客への売上高が損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所有している有形固定資産はないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

損益計算書の売上高の10%以上を占める外部顧客がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)

当社は、管工機材卸売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)

当社は、管工機材卸売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)及び当事業年度(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日)	当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり純資産額	2,282円86銭	2,391円68銭
1株当たり当期純利益金額	71円73銭	75円92銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年5月31日)	当事業年度 (平成25年5月31日)
純資産の部の合計額(千円)	9,469,298	9,920,671
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	9,469,298	9,920,671
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	4,147	4,147

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日)	当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日)
当期純利益金額(千円)	297,529	314,911
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	297,529	314,911
期中平均株式数(千株)	4,147	4,147

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
(株)キッツ	1,020,303	513,212
岡谷鋼機(株)	138,000	172,500
(株)ベン	133,000	101,080
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	110,000	47,080
(株)フタワフランチ製作所	30,000	42,000
(株)大気社	13,532	30,448
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	45,420	27,024
日本精工(株)	25,000	24,075
ダイダン(株)	45,493	23,793
阪急阪神ホールディングス(株)	42,000	22,680
(株)多久製作所	15,000	21,750
(株)ヨシタケ	28,360	19,426
日立金属(株)	17,000	18,054
J F Eホールディングス(株)	7,164	15,367
(株)テクノホールディングス	20,000	14,060
その他 25銘柄	256,309	116,146
計	1,946,583	1,208,698

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,103,086	4,334	334 (334)	2,107,086	1,486,147	33,076	620,938
構築物	163,935	3,100		167,036	141,723	2,596	25,312
機械及び装置	71,912			71,912	69,781	710	2,130
車両運搬具	57,384	12,948	12,905	57,428	45,426	5,201	12,001
工具、器具及び備品	146,640	2,885	3,238	146,287	132,288	3,642	13,999
土地	2,529,737		25,510 (25,510)	2,504,226			2,504,226
有形固定資産計	5,072,698	23,268	41,989 (25,845)	5,053,977	1,875,368	45,227	3,178,608
無形固定資産							
電話加入権				1,627			1,627
水道施設利用権				560	418	36	141
無形固定資産計				2,187	418	36	1,768
長期前払費用	4,632	2,757		7,390	4,447	46	2,943

(注) 1. 無形固定資産の金額が、資産総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

2. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	71,742	45,051	427	20,926	95,442
賞与引当金	136,800	116,535	136,800		116,535

(注) 貸倒引当金の当期減少額「その他」のうち327千円は、債権の回収に伴う目的外取崩しであります。また、20,599千円は洗替によるもの等であります。

【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が、当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	36,825
預金	
当座預金	931,495
普通預金	421,641
小計	1,353,137
合計	1,389,963

受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
武田機工(株)	139,429
三建設備工業(株)	102,549
ダイダン(株)	82,509
(株)マルニシ	79,272
(株)五光商会	75,718
その他	2,922,077
合計	3,401,557

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年6月満期	695,311
7月 "	824,019
8月 "	827,993
9月 "	730,423
10月 "	302,824
11月以降満期	20,984
合計	3,401,557

電子記録債権
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)小泉	157,288
東レ・メディカル(株)	7,731
日本ドライケミカル(株)	2,751
(株)モリタエコノス	1,416
サクラ産業(株)	975
その他	2,046
合計	172,210

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年6月満期	26,653
7月 "	50,076
8月 "	50,547
9月 "	44,626
10月 "	307
合計	172,210

売掛金
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
三機工業(株)	454,880
高砂熱学工業(株)	186,492
(株)大気社	122,376
新菱冷熱工業(株)	90,162
三建設備工業(株)	86,171
その他	2,826,722
合計	3,766,806

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円) (A)	当期発生高(千円) (B)	当期回収高(千円) (C)	当期末残高(千円) (D)	回収率(%)	滞留期間(日)
				$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
3,863,985	23,493,062	23,590,241	3,766,806	86.2	59.3

(注) 消費税等を含んでおります。

商品

品名	金額(千円)
バルブ・コック類	713,785
継手類	430,554
冷暖房機器類	94,532
衛生・給排水類	76,777
パイプ類	58,119
その他	64,519
合計	1,438,289

支払手形
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)ベン	165,763
(株)メタルワン	122,831
(株)ヨシタケ	112,430
(株)TOZEN	84,424
(株)多久製作所	80,040
その他	1,753,295
合計	2,318,787

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年6月満期	571,246
7月 "	619,142
8月 "	587,180
9月 "	539,450
10月 "	1,767
合計	2,318,787

買掛金

相手先	金額(千円)
(株)キッツ	286,916
東洋バルブ(株)	89,577
(株)ベン	73,826
(株)ヨシタケ	58,271
古林工業(株)	40,647
その他	948,182
合計	1,497,422

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(千円)	5,554,429	11,447,291	16,936,476	22,273,404
税引前四半期(当期)純利益金額(千円)	69,923	266,869	366,860	483,431
四半期(当期)純利益金額(千円)	75,816	193,647	251,278	314,911
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	18.28	46.68	60.58	75.92

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	18.28	28.41	13.89	15.34

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
剰余金の配当の基準日	11月30日 5月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.kk-otake.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第60期）（自 平成23年6月1日 至 平成24年5月31日）平成24年8月29日東海財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年8月29日東海財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第61期第1四半期）（自 平成24年6月1日 至 平成24年8月31日）平成24年10月12日東海財務局長に提出

（第61期第2四半期）（自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日）平成25年1月11日東海財務局長に提出

（第61期第3四半期）（自 平成24年12月1日 至 平成25年2月28日）平成25年4月11日東海財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成24年8月30日東海財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 8月28日

株式会社オータケ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渋谷 英 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神野 敦 生

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オータケの平成24年6月1日から平成25年5月31日までの第61期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オータケの平成25年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社オータケの平成25年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社オータケが平成25年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
 2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。